

カムルチー (タイワンドジョウ科)



学名 : *Channa argus*

別名 : ライギョ, スネークヘッド, カモチン, カモジンなど

大きさ : 全長 80 cm

特徴 : 大型になり, 体型は長い円筒形。背びれと臀びれの基底が長い。体にはへビのような斑紋がある。河川の流れの緩い場所や池などの水生植物が多いところに棲む。産卵は6~8月頃で, 雌雄で水生植物の少し広がった水面に浮遊物を集めた巣を作り, そこへ卵を産み付ける。両親は巣の下にいて, 卵や仔魚を保護する。口から空気を吸い酸素を取り込むことができる。

国内の分布 : 北海道や本州, 四国, 九州

県内の分布 : 各地の河川湖沼に分布

県内での生態 : 食性は肉食性で共食いも見られる。霞ヶ浦では, ハゼ類, モツゴ, タナゴ, テナガエビなどを食べる。全長5~7cmの幼魚はイサザアミも多く食べている。水温が下がる冬は, 冬眠状態になり捕食を止める。

巣の中にいる頃の仔魚は全体的に黒いが, 体色に黄色味が増してくると(写真), 巣か



写真 : 体長約 2.5cm の稚魚。

ら出て群泳するようになる。

備考 : 原産地はアムール川から長江までの中国や朝鮮半島。茨城県で増えた経緯は明らかではないが, 霞ヶ浦・北浦では1937年頃から増えはじめ, 第2次世界大戦およびその直後では食用として漁獲されていた。現在も霞ヶ浦をはじめ県内各地に分布するが, 個体数は少ないと思われる。外来生物法で要注意外来生物に選定されている。

主な文献 :

加瀬林成夫 (1957) カムルチー *Channa argus* (Cantor) の食性について. 茨城県水産振興場研究報告, 2: 20-25.

野内孝則・荒山和則・富永敦 (2008) 霞ヶ浦北浦で確認された外来魚の導入経緯. 茨城内水試研究報告, 41: 47-54.